



川上夏穂
小泉研究室

江ノ電沿線に住む

敷地：神奈川県鎌倉市
用途：集合住宅



線路側玄関住宅・私設踏切・線路にはみ出す園芸等、江ノ電沿線では敷設の経緯に由来し、独自の特色が見られる。この電車が通る非日常的な空間が日常に溶け込む様子は、一般的な線路にはない、沿線に住む住民が築いてきた江ノ電の魅力である。一方、これらの特徴を持った沿線空間は減少しており、認識もあまりされていない。

そこで、沿線に形成される特徴を取り入れ、魅力に気づかせる、また維持向上させる集合住宅を提案する。

■江ノ電沿線に見られる個性的な特徴



線路側玄関住宅



私設踏切



線路脇の細い通路



線路にはみ出す園芸



近い電車との距離

街を分断する一般的な線路とは異なり、線路と街の境界が曖昧で、その間をすり抜けるようにゆっくりと電車が走る

■コンセプト

「気づく」から「維持・向上」の循環をつくる



江ノ電沿線を歩く人
江ノ電に乗っている人

1. 魅力に気づかせ、江ノ電と聞いて、線路が街に溶け込む様子や街中をすり抜ける様子を思い浮かべる人を増やす

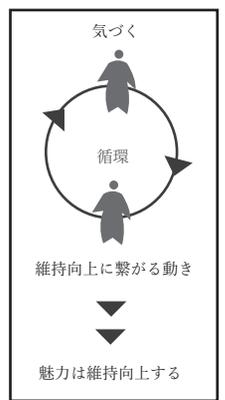
2. 既存の特徴を保存して活かした建築や、新しい共存関係が築かれ、魅力は維持・向上される



沿線に住む人

1. 沿線に住む住民が築いてきた江ノ電の魅力を維持し、向上させる空間をつくってもらう

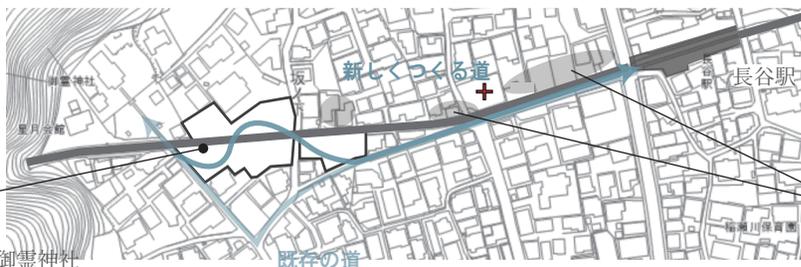
2. 新たに魅力に気づいた住民によって、さらに魅力の維持・向上に繋がる空間がつけられる



コンセプト図

■敷地

長谷駅から極楽寺駅間
(御霊神社付近)



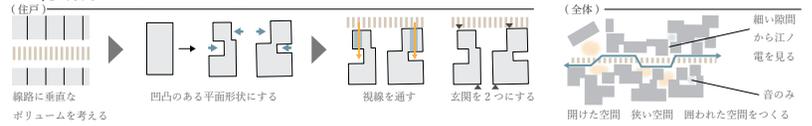
特徴

- ・江ノ電にも関係する観光スポットがある
- ・沿線を歩く人が発生しやすい
- 観光スポット(御霊神社)があるため
- 多くの観光客が下車する長谷駅に近い
- ・江ノ電沿線に見られる特徴が集中している





設計アプローチ



住民がつくる沿線空間 時間経過例



凹凸のある平面形状の凹の部分は最初、共用空間として使用され、防災センターが管理する



沿線に住む住民が築いてきた魅力の維持
住人がテラスや庭を増築したり、植木鉢を置いたりして沿線空間をつくる

魅力を伝える

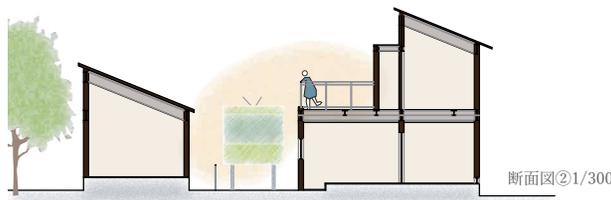


江ノ電に乗っている人と沿線を歩く人の体験と見え方を計画し、魅力に気づかせる

- 電車に乗っている人に気づかせる
- ・屋根形状で視線を誘導する
- ・電車に乗っている人だけが見える、建物内を通り抜ける視線の通り道をつくる
- 電車の存在を意識していることを伝えたり、沿線の風景に注目させるきっかけとする



沿線に住む住民が築いてきた魅力の向上
ライフスタイルや住人の変化に対応して転用され、沿線空間をより豊かにする



- 沿線を歩いている人に気づかせる
- ・2階をセットバックさせ、1階だけでなく、2階部分も線路空間との境界を曖昧にする

- ・私設踏切、線路脇の細い通路を土地勘がない人にも通りやすくする

